

## ダイオウ

学名：*Rheum officinale* Baillon 科名：タデ科



ダイオウは中国西部原産で薬用として栽培されています。日本では奈良県などでわずかに薬用だけでなく、観賞用としても栽培されています。葉は大形で直径は40cm以上です。薬用部位である根茎は肥厚していて、黄褐色です。

乾燥した根茎は「大黄（ダイオウ）」と言う生薬です。根に「センノサイド」という成分が含まれ、年を重ねるごとにその含有量が多くなるため3年生以上のものを薬用に使用します。「センノサイド」は大腸を刺激して腸の動きを活発にさせることで、排便を促す強い瀉下作用を有しています。そのため、便秘や便秘によるふきでも、お腹のはり、バリウム造影剤を用いた検査後の下剤として用いられます。2週間を超える長期服用は、依存性の便秘増悪を起し、用量の増加が必要となるため、便秘の短期治療に用いられます。体質によっては悪心、嘔吐、発熱などが起こるため服用量には注意が必要です。

便秘を引き起こす原因として食生活の変化、ストレス、運動不足などがあります。これらを改善しても治らない場合は一時的に様々な便秘薬を用いてみてはいかがでしょうか。

生薬名	大黄（ダイオウ） <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">局方生薬</span>
薬用部位	根茎
薬効	止瀉健胃、瀉下、利尿作用
用途	便秘による腹痛、常習性便秘に用いられる。 桂枝加芍薬大黄湯（ケイシカシャクヤクダイオウトウ）、 大黄甘草湯（ダイオウカンゾウトウ）など



## ニチニチソウ

学名： *Catharanthus roseus* (L.) G.Don. 科名：キョウチクトウ科



赤、白、ピンクの3色が鮮やかで綺麗な花ですね。こちらはニチニチソウという植物で、炎天下でも日々、花が絶えず咲くことから命名されました。マダガスカル島が原産の常緑低木植物で、熱帯では代表的な花です。日本にはオランダから渡来し、1年草として栽培されています。光沢のある長楕円形の葉をつけ、花色は赤、白、ピンクの他に紫紅色など多彩にあり、世界各地で観賞用に栽培されています。

昔は民間療法として降圧剤、止血剤などとして使用されてきました。近年の研究で「ビンブラスチン」と「ビンクリスチン」という2種類の成分に抗悪性腫瘍作用（抗がん作用）を有することが明らかになりました。ビンクリスチンは「オンコビン」という医薬品として、ビンブラスチンは「エクザール」という医薬品として白血病やリンパ腫などのがん治療に使用されています。

身の回りにも医薬品に利用されるほど有益な植物が存在しています。医薬品としての可能性を秘めている植物の研究が進み、新薬が開発されることを今後も期待したいですね。

生薬名	日日草（ニチニチソウ）
薬用部位	全草
薬効	抗悪性腫瘍（抗がん）、降圧作用
用途	抗悪性腫瘍薬 （急性白血病、悪性リンパ腫、小児腫瘍）



## オトコヨモギ

学名： *Artemisia japonica* Thunb. 科名：キク科



皆さんもこの植物を目にしたことがあるのではないのでしょうか。オトコヨモギという植物で、ヨモギの1種です。実が1mmにも満たないほど小さく種子がないと思われたことから、オトコのヨモギと呼ばれるようになったと言われています。

オトコヨモギは北海道から沖縄、東アジアの温帯から熱帯にかけて分布し、日当たりの良い山野に生えている多年草です。花期は8～11月で、円すい状に多数の淡黄色の小形の花をつけます。

採集時期、使用部位によって青蒿（帯花枝葉）、茵陳蒿（花穂）、牡蒿（全草）と別の名がつけられています。通常、青蒿にカワラニンジン、茵陳蒿にカワラヨモギやハマヨモギ、「牡蒿」にオトコヨモギが使用されます。

オトコヨモギの花穂は消炎性利尿、利疸薬として黄疸、肝炎などに使用されます。全草は感冒による発熱、疲労による咳、マラリア、口内炎、でき物、湿疹、黄疸などに用いられます。また、全草のアルコールエキスは白癬菌に対する抗菌作用があります。

生薬名 牡蒿（オトコヨモギ）

薬用部位 青蒿（帯花枝葉）、茵陳蒿（花穂）、牡蒿（全草）

薬効 消炎性利尿作用、利疸作用

用途 黄疸や肝炎に用いられる。



## ツルナ

学名：*Tetragonia tetragonoides* (Pall.) O. Kuntze 科名：ツルナ科



この植物を召し上がったことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。ツルナという植物で、お浸しや天ぷらなどで食べられています。

北海道西海岸から九州、沖縄および中国、台湾、南アジア、南米、ニュージーランド、オーストラリアに分布し、海岸地帯に生える多年草です。β-カロテンやビタミンK、鉄分などの栄養素が豊富なため、海岸に生えるほうれん草とも言われています。

葉は肉厚で無毛ですが、塩囊細胞と呼ばれる小さな粒状の突起があり、光沢があるように見えます。花は4〜11月に咲き、黄色の花を1から2個つけます。

全草に含まれる成分に抗菌作用があることが知られており、また健胃の効果があることから胃炎や腸炎に用いられた民間薬です。肌荒れや貧血、骨粗鬆症などの予防に關与する栄養素を含み、食生活の質を高めてくれます。多岐にわたる健康サポートへの貢献が期待されます。栄養バランスの良い食事のためにも適度に摂り入れていきたいですね。

生薬名	蕃杏 (ばんきょう)
薬用部位	全草
薬効	抗菌、清熱、解毒、去風、消腫、健胃など
用途	健胃薬、解毒薬、消腫薬として胃炎、腸炎、敗血症などに用いられる。